

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	(ア)地域住民の生活基盤の安定と生命安全の確保 (イ)不発弾処理技術の向上による犠牲者の減少
(2) 事業内容	(ア)不発弾処理活動 UXO Lao-ATP の 6 個処理チームと協同で不発弾処理活動を実施、計画に基づきアッタプー県内の土地の安全化を進めている。また、随時発見が報告された不発弾は、降雨による移動の制約があるものの努めて早期に処理している。 (イ)技術移譲 (a)不発弾処理技術移譲 学科(計画教育)と実技(OJT)の両方にて不発弾処理技術移譲を実施している。不発弾処理現場を教育の場として、実技での指導に重点を置いて UXO Lao-ATP の処理チームを主対象に実施している。特に、随行指導として、山中で見つかる不発弾処理について、隊員と一緒に行動しつつ指導している。
(3) 達成された効果	(ア)不発弾処理 不発弾処理汚染地域の処理により、処理目標 140ha のうち 45.3ha(32%)を安全化し、住民の生活の安定、教育環境や生活環境の改善を図った(別紙第 1)。また、随行指導により、大型爆弾 2 発、クラスター子弾 193 発、砲弾等 8 発を安全化し、地域の環境改善に寄与した(別紙第 3)。 (イ)技術移譲 (a)不発弾処理技術移譲 UXO Lao-ATP 隊員が、JMAS 専門家の不発弾処理技術を修得し、不発弾処理を安全かつ効率的に実施し得る基盤を構築するため、年間計画を作成(別紙第 2)し実施しているが、年間計画回数 258 回に対し実施回数 102 回(40%)終了した。
(4) 今後の見通し	(ア) 不発弾処理 今後の活動しやすい乾季を通じ不発弾処理汚染地域の処理面積目標 140ha の処理は実施でき、住民の生活の安定、教育環境や生活環境の改善に貢献出来る見込みである。 (イ)技術移譲 (a) 不発弾処理技術移譲 引き続き年度の教育実施計画に基づき実施するとともに、事業の終末に不発弾処理技術判定を行い、UXO Lao-ATP 隊員の不発弾処理技術の習得度を確認する。また、引き続き南部 2 県(セーコン県・サラワン県)の UXO Lao 隊員、及び UXO Lao 全体の教育を行っているトレーニング・センターの教官への研修を実施し、UXO Lao 全体に対する不発弾処理技術移譲の基盤を構築する。特に、ラオス NRA(国家統制委員会)の了解を得つつ大型爆弾のカットによる安全化の試験を、2 回に分けて実施する。これには、トレーニング・センター教官、南部 2 県の UXO Lao SEOD 隊員も参加させ普及を図っていくとともに、成果を NRA に報告する

	<p>(ウ)調整会議の実施 事業に関する機関関係者の参集を募り、事業内容・課題等について説明・討議し事業の円滑な実施を図っていく。</p>
--	---